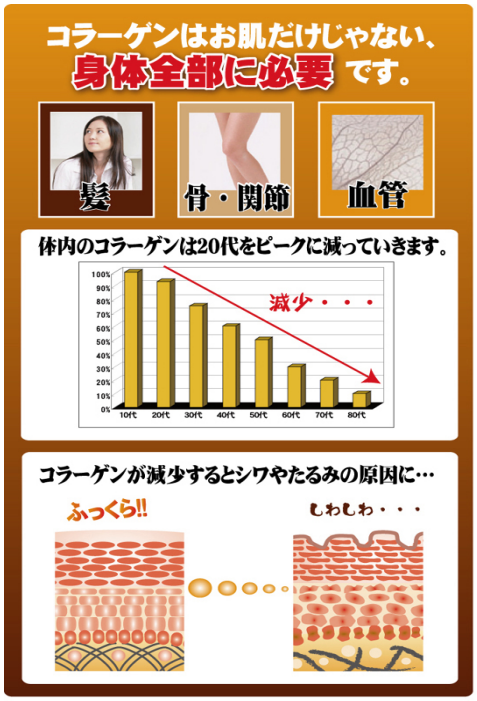
Scale Collagen

スカールコラーゲン

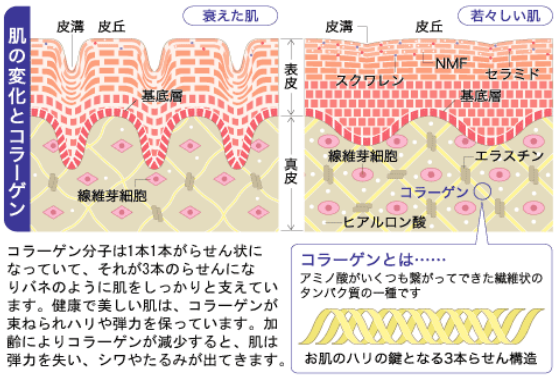
　コラーゲンは、様々な結合組織に、力学的な強度を与えるのに役立っている。若干の弾力性もある。特に、腱の主成分は上述のコラーゲン繊維がきちんとすきまなく配列したもので非常に強い力に耐える。腱には、筋肉が発生した引っ張り力を骨などに伝え、運動を起こす際に非常に強い力がかかる。また、骨や軟骨の内部では、びっしりと詰め込まれたコラーゲン細繊維が、骨や軟骨の弾力性を増すのに役立っており、衝撃で骨折などが起こることから守っている。また、皮膚の弾力性や強度に役立っている、などである。ヒドロキシプロリン・ヒドロキシリジンはいずれもタンパク合成の際に組み込まれるのではなく、まずそれぞれプロリン・リジンの形で合成され、タンパク鎖が形成された後で酸化酵素により付加される。またこの反応の際にはビタミンCを補酵素として、鉄を補因子として必要とするため、ビタミン C を欠いた食事を続けていると正常なコラーゲン合成ができなくなり、壊血病を引き起こす。



スカールコラーゲンは厳選された日本の工場で、品質・安全・衛生面で管理しており品質の高いコラーゲンです。また、日本で初めてグルタチオン（肝臓内の酵素）を使って、活性酸素消去の分析データで他の動物のコラーゲンにはまったく活性酸素消去が無いのに対して、当スカールコラーゲンは12．6%抗酸化酵素の促進データでした。加水分解後（低分子化2,000～3,000）で抗酸化酵素129%のデータがでましたので抗活性型コラーゲンで病気の90%が原因と言われております活性酸素を大なり小なり消去する抗酸化コラーゲンです。

老化や病気の誘因となる活性酸素

＜上記のような分析データを出しているコラーゲンメーカーは他にはございません＞



こんな方に：シミ・シワが気になる・インナードライで乾燥肌が気になる・髪のパサツキ・髪が細くなって気になる・ツメが割れ気になる・変形性関節・骨粗しょう症・腰痛・床ずれ・創傷に作用・歯周病・高血圧・高血糖等

使用方法：減臭・低分子化されたコラーゲン100%ですので溶けにくい場合は、先にコラーゲンを入れてからオレンジジュース（ビタミンCの多い水分）・コーヒー・お茶・水分をその後、入れて1日大さじ1杯5g～10gを目安に、ご愛飲下さい。お料理にも同量のコラーゲンを入れて積極的にコラーゲンを取り入れましょう。当社のビタミンCと一緒に摂取されるとスカールコラーゲンの作用がより実感されております。

成分：コラーゲン（魚由来）　製造・生産：日本　NET：100g　￥3,000（税込￥3,150）

1kg：業務用　　注意：使用中、使用後、異常がある場合は、使用をひかえてください。

製造販売元：日本美容薬草　愛知県安城市横山町毛賀知 42-1
お問い合わせ 090-8157-0684　mail:qqda5km@wh.commufa.jp

スカールコラーゲン分析試験成績　分析試験結果　日本食品分析センター

分析試験項目	結果	検出限界	注	方法
水分	2．3g／100g			常圧加熱乾燥法
たんぱく質	97．1g／100g		1	ケルダール法
脂質	0．1g／100g未満			ソックスレー抽出法
灰分	0．2g／100g			直接灰化法
炭水化物	0．4g／100g		2	
エネルギー	390kcal／100g		3	
ナトリウム	17．2mg／100g			原子吸光光度法
銅	28μg／100g			原子吸光光度法
亜鉛	90μg／100g			原子吸光光度法
pH	6．5		4	ガラス電極法
二酸化イオウ	検出せず	0．003g／kg	5	
ヒ素（As_2O_3として）	検出せず	0．1ppm		原子吸光光度法
鉛	検出せず	0．05ppm		原子吸光光度法
一般細菌数（生菌数）	100以下／g			SCDLP寒天平板培養法
大腸菌群	陰性／2．22g			BGLB法
黄色ブドウ球菌	陰性／0．01g			平板塗抹培養法
サルモネラ	陰性／25g			増菌培養法

注1：窒素・たんぱく質換算係数：5．55　注2．計算式：100－（水分＋たんぱく質＋脂質＋灰分）
注3．栄養表示基準（平成15年厚生労働省告示第176号）によるエネルギー換算係数：たんぱく質，4；脂質，9：炭水化物，4注4．10％懸濁液について測定した。注5．第2版　食品中の食品添加物分析法2000「二酸化硫黄（試験法B）」によった。注2

安全性試験結果　明海大学歯学部歯科薬理学講座　教授　但馬雅道

実験名	結果
皮膚刺激性試験（ウサギ）	異常なし
眼粘膜刺激性試験（ウサギ）	異常なし
急性毒性試験（マウス）	異常なし

DPPHラジカル消去活性試験　岡山理科大学　理学部　基礎理学科　生物化学研究室　教授　浜田　博喜
阻害率（％）＝[1－（A／Ac）]×100　A：サンプルの吸光度　Ac：コントロールの吸光度

抗酸化活性を有していることが確認された。

グルタチオンペルオキシダーゼ促進活性試験　抗酸化能の機能性評価を行った
阻害率（％）＝[1－（A／Ac）]×100　A：サンプルの吸光度　Ac：コントロールの吸光度

	促進率
スカールコラーゲン	12．6％
動物性コラーゲン	0％

スカールコラーゲンは体内の抗酸化活性の働きを強めることが確認された。
グルタチオン　S－トランスフェラーゼ促進活性試験
新陳代謝促進機能、肝機能強化の機能性評価を行った。
促進率（％）＝[1－（ln　a／ln　ac）]×100　a：サンプルの初速度　ac：コントロールの初速度

	促進率
スカールコラーゲン	10．8％
動物性コラーゲン	2．4％

スカールコラーゲンは動物性コラーゲン以上に、解毒酵素の働きを強めることが確認された。